

月刊 JPCOAR Vol. 9

ダイヤモンドOA

東京大学附属図書館 / JPCOAR イベント運営作業部会

下城 陽介

2022年6月15日(水)



引用部分を除いて、このスライドの内容はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 ライセンスの下に提供されています。

目次(本日の発表内容)

- ① はじめに
- ② ダイヤモンドOAとは?
- ③ The OA Diamond Journal Study
- ④ Action Plan for Diamond Open Access
- ⑤ 日本の状況
- ⑥ オープンソースの電子ジャーナルプラットフォーム
- ⑦ おわりに

① はじめに

本日の発表で私が伝えたいこと。

□ ダイヤモンドOAを推進しよう!

□ そのために図書館員は何ができるか検討しよう!

② ダイヤモンドOAとは？

ダイヤモンドOA (Diamond Open Access) とは、

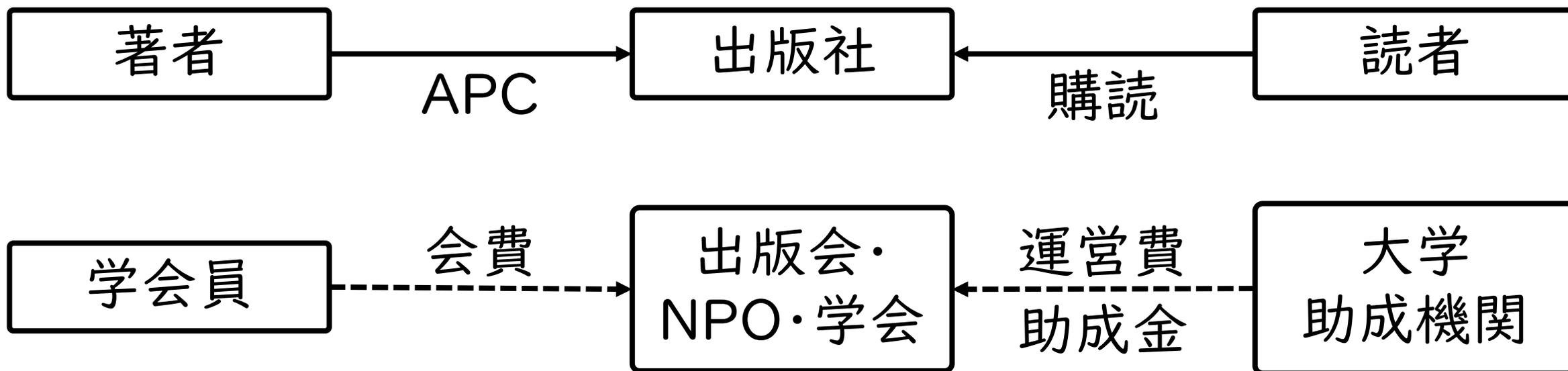
読者は購読料を、著者は論文投稿料・掲載料 (APC: Article Processing Charge) を、支払わずに出版するオープンアクセスジャーナル (論文) の出版モデルのこと。プラチナOA (Platinum OA) と呼ばれることもある。

論文出版に必要な経費 (校閲・編集・連絡調整・査読・サーバの管理・メタデータの登録など) を研究助成機関や大学などの研究機関が負担するか、学会の会員がボランティア (無償) で賄っている。

② ダイヤモンドOAとは？

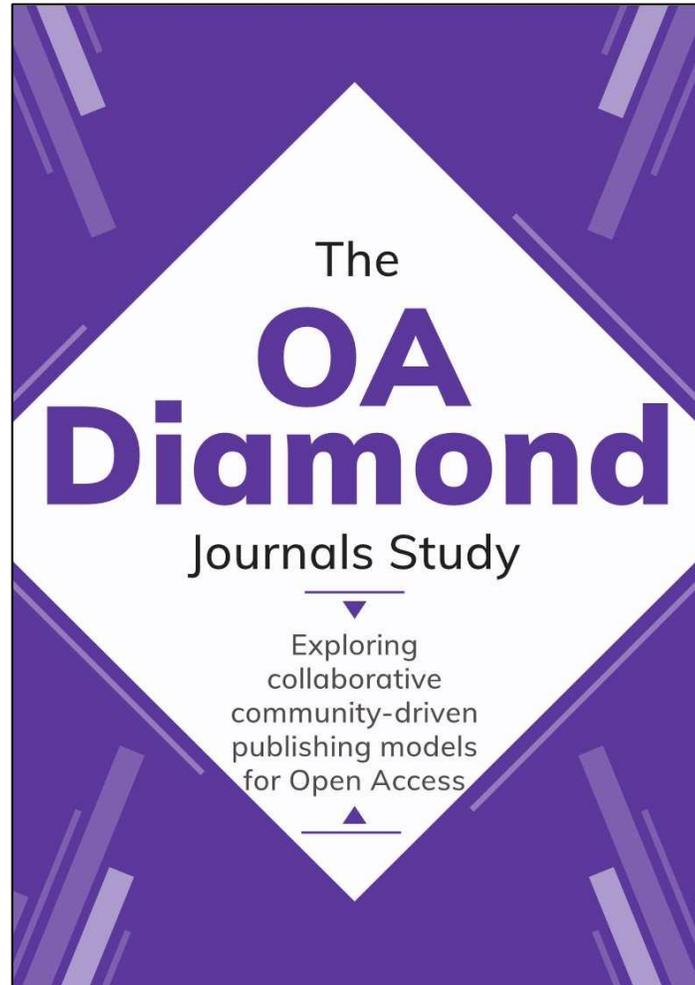
つまり、**お金がかからない**というわけではない。

言い換えると、(著者のAPCで営利企業が出版する) **ゴールドOA**の**非営利形態** (APCが0円で非営利組織が出版する) がダイヤモンドOAということである。



③ The OA Diamond Journal Study

調査・研究報告書



<https://scienceeurope.org/our-resources/oa-diamond-journals-study/>

③ The OA Diamond Journal Study

概要

Science EuropeとcOAlition Sが助成・委託したダイヤモンドOAジャーナルについての調査・研究の報告書。「提言」と「研究結果」の2部構成。2020年6月から2021年2月にかけて調査・研究を実施。複数の書誌データベースの統計分析・1,619誌への94問のアンケート調査・その他のデータの収集・11誌への3回のフォーカスグループ・ホスティングプラットフォームへの10回のインタビューを実施。また、163の学術文献を収集し、DOAJに掲載されていない1,048誌を目録化した。

③ The OA Diamond Journal Study

調査・研究の実施は、以下の10機関

Partners:

- OPERAS
- Sparc Europe
- Utrecht University
- DOAJ
- UiT The Arctic
University of Norway

Associate partners:

- LIBER
- OASPA
- ENRESSH
- Redalyc-AmeliCA
- CSI

③ The OA Diamond Journal Study

この報告書を読んでほしい主な対象（利害関係者）

- **資金提供者**：国の助成機関、政府、民間財団、その他助成を行う立場にある組織など。
- **研究機関**：大学または研究実施機関（研究部門、大学出版会、図書館を含む）、その他すべての公的研究実施機関。
- **学会**：特定の研究分野における知識の発展を支援する独立した学術団体、学識者団体、財団。
- **インフラ**：OAダイヤモンドジャーナル公開のために、校正、組版、システム構築など、技術的作業を行うための支援を提供する組織。

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果 I

現状 (Landscape) : 様々な分野や地域におけるダイヤモンドOAジャーナルの多様性、範囲、影響力を示す。

結果 I (地域・分野・言語など) 多様なコミュニティにサービスを提供する (論文数が少ない) 小さな雑誌が広範囲に散在している。

OAダイヤモンド誌の数は多く (推定29,000誌)、DOAJに登録されているのはその3分の1に過ぎない。OAダイヤモンドジャーナルは、一般的にAPCベースのジャーナルよりも発行する論文の数が少ない (年間約453,000本に対し356,000本)。

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果2

準拠 (Compliance) : どのようにOAダイヤモンド誌がPlan Sの技術要件に例示される業界標準に準拠するか。

結果2 OAダイヤモンド誌は、Plan Sへの完全準拠の途上である。

OAダイヤモンド誌は、Plan Sの技術要件で指定された基準にまだ完全に準拠していません。調査した6つの基準のうち、すべての基準に準拠しているOAダイヤモンド・ジャーナルはわずか4.3%であり、半分以上の基準に準拠しているのは37%に過ぎません。

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果2 調査したPlan Sの6つの技術要件

1. CCライセンスが付与されているか。(License)
2. 査読はされているか。(Peer review)
3. 著作権は著者にあるか。(Author copyright)
4. 永続的な識別子 [DOI、ORCID、GRANT ID] は付与されているか。(Article PID: Persistent identifiers)
5. 保存の体制が整っているか。(Permanent preservation)
6. 機械読み取り可能なCCライセンスを論文に埋め込んでいるか。(Machine-readable license)

③ The OA Diamond Journal Study

【参考】Plan Sとは

2021年より、国内、地域、国際的な研究評議会や助成団体から提供される公的または私的な助成金による研究成果に関するすべての学術出版物は、オープンアクセス誌、オープンアクセス・プラットフォームで出版するか、オープンアクセスリポジトリからエンバーゴなしに直ちに利用できるようにしなければならない。

Plan S. Principles and Implementation

<https://www.coalition-s.org/addendum-to-the-coalition-s-guidance-on-the-implementation-of-plan-s/principles-and-implementation/>

③ The OA Diamond Journal Study

【参考】Plan Sとは

“1) 出版物の**著作権は著者**（または所属機関）が**保持する**。全ての成果はオープンライセンスの下で公開されねばならない（CC-BYが望ましい）。

2) (Plan S遵守と見なす) OA雑誌、OAプラットフォーム、OAリポジトリの基準と要件は**参加助成機関が定める**。

3) 適切なOA雑誌等が存在しない場合には**設立・運営を支援する**。”

佐藤 翔, 図書館情報学の窓から[第6回] Plan Sがやって来る ヤア! ヤア! ヤア!(後) : Plan Sに乗るか否か?, 2019.11.04, https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/y2019/PA03345_05 14

③ The OA Diamond Journal Study

【参考】Plan Sとは

“ 4) OA出版にかかる料金 (APC) は助成機関または所属機関が負担し、研究者個人には課さない。全研究者が自身の成果をOAにできるようにすべきである。

5) OA出版にかかる料金はサービスに見合った金額でなくてはならず、価格の根拠は市場・助成機関にとって透明性のあるものでなければならない。その情報に基づいて、OA料金の標準化・上限設定の可能性がある。”

佐藤 翔, 図書館情報学の窓から[第6回] Plan Sがやって来る ヤア! ヤア! ヤア!(後) : Plan Sに乗るか否か?, 2019.11.04, https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/y2019/PA03345_05 15

③ The OA Diamond Journal Study

【参考】Plan Sとは

“6) 透明性担保のために、**政府・研究機関・図書館・学会等のポリシーなどの(Plan Sへの) 整合を推奨**する。

7) 本原則は**あらゆる学術出版物に適用される**ものの、単行書や本の章のOA化はより時間がかかること、異なるプロセスが必要となることは理解している。”

佐藤 翔, 図書館情報学の窓から[第6回] Plan Sがやって来る ヤア! ヤア! ヤア!(後) : Plan Sに乗るか否か?, 2019.11.04, https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/y2019/PA03345_05

③ The OA Diamond Journal Study

【参考】Plan Sとは

- “8) (追加料金を払って購読型雑誌掲載論文の一部をOAにする)
ハイブリッドOAは認めない。ただし、期限を定めて完全なOAに移行する過程でOA移行型契約の一部として支払われる場合は、期間限定で助成対象とする。
- 9) 参加機関は助成対象者らの原則の遵守・違反状況を監視する。
- 10) 参加機関が研究成果を評価する場合には、出版の手段やインパクトファクター（等の雑誌単位の評価指標）、出版社名を考慮せず、業績の本質を評価する。”

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果3

力学 (Dynamics) : OAダイヤモンド誌の仕組みと課題の理解

結果3 科学的な強みと運営上の課題が混在している。

ほとんどのOAダイヤモンド誌(67%)は、最高レベルの科学的品質管理(二重盲検査読)を順守していますが、再査読者を見つけることに苦勞しています。また、運営上、多くの課題を抱えている。雑誌の多くは研究機関や学会が所有するものであるが、その半数は所有権を証明する法的文書が存在しません。

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果4

持続可能性 (Sustainability) : OAダイヤモンドジャーナルがどのように資金調達され、どの程度持続可能であるかの理解。

結果4 運営経費をボランティア、大学、政府に大きく依存している。

OAダイヤモンド誌の財務的健全性については、40%強のジャーナルが収支均衡、25%が赤字と回答しています。ほぼ3分の1のジャーナルが自分の財務状況を知らないと回答し、その3分の1以上が大学所有のジャーナルと大学出版局の両方から報告されている。

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言I

技術支援の効率化 (Streamline Technical Support)

OAダイヤモンド誌の多くは、DOAJなどの確立された索引に含まれていないため(推定29,000誌のうち約10,000誌がDOAJに掲載)、主要ターゲット層にとってはほとんど知られておらず、未知の世界となっている。これは、オープンアクセスに関する政策を立案し実施する資金提供団体や政策機関、また、この分野のニーズにより適合したサービスを提供するための重要な情報を欠きインフラにとって、深刻な障害となる。

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言1.1 【対象】基盤（インフラ）、研究機関

編集と品質保証のサービス提供の連携強化 (Better coordinate editorial and quality assurance service provision)

- 査読者情報の共有を促進しよう!
- 資金提供者の支援を得るために、雑誌の統計情報（投稿受付数や所属する著者の数など）を報告できるようにしよう!
- メタデータの付与などの貢献を研究者の評価の対象として認めよう!

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言1.1

- **査読を研究者の評価の対象に認めよう!** この重要な仕事に対して研究者は報われる必要があります。
- Crossrefが提供するSimilarity Checkのような**共有の剽窃防止サービス**を利用しよう! Crossrefのメンバーであれば、少額の追加料金でこのサービスを使うことができます。

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言1.2【対象】研究機関、学会、基盤（インフラ）
法的所有権およびガバナンスルールの形式化（Formalise legal
ownership and governance rules）

- 敵対的買収などの学術雑誌にとって不必要な法的リスクを回避し、より良い後継者計画を立てるために、学術雑誌の所有状況を明示しよう！
- 学術誌の法的地位、所有形態、管理体制に関する指針を正式に定めるためのツールやテンプレートを学術誌編集者に提供しよう！

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言1.3【対象】資金提供者、研究機関、基盤（インフラ）

書誌多様性を支えるインフラの能力向上 (Increase infrastructure capacity to support bibliodiversity)

- 標準的なオープンソース技術に基づく既存のホスティングサービス（ダイヤモンドOAの基盤）を支援しよう！
- OAダイヤモンド誌のリスト作成（管理・拡張）と、共同体（コミュニティ）への働きかけを継続しよう！

③ The OA Diamond Journal Study

【参考】書誌多様性とは(孫引きです……)

「書誌多様性とは**出版の世界における文化的な多様性**を意味する。生物多様性(biodiversity)に呼応して、**多種多様な作品**(書籍、脚本、電子ブック、アプリ、口承文学)が**提供されている状態**を指す。書誌多様性は、口述、執筆、出版などの方法で生み出された口承・文芸作品から成る、**複合的で自己持続的なシステム**といえる。作家や編集者は、生態系における生物に例えられる。書誌多様性は豊かな文化生活や健全なエコソーシャルシステムに貢献する。」

学術情報流通における「書誌多様性」の形成に向けて —行動の呼びかけ—

<http://doi.org/10.20736/00001276>

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言2

Plan Sの遵守の確認 (Ensure Compliance with Plan)

ダイヤモンドのOAジャーナルは、Plan Sの技術要件で規定された基準にまだ完全に準拠していないことがわかります。調査した6つの基準のうち、すべての基準に適合しているOAダイヤモンド誌はわずか4.3%で、すべての基準の半分以上に適合しているのは37%のみです。

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言2.1【対象】資金提供者、研究機関、学会

オープンライセンスの認知度向上と理解の促進、および政策実施の推進 (Raise awareness and understanding of open licenses and promote policy implementation)

- 資金提供者や研究機関は、オープンライセンス（CCライセンス）の導入がまだの場合は、その推進に努めよう！
- すでに出版された論文にオープンライセンスを遡及的に埋め込むために具体的な支援をしよう！

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言2.2【対象】基盤（インフラ）、研究機関

特に小規模なジャーナルの場合、DOIの取得を容易にする。

(Facilitate access to DOIs, particularly for smaller journals)

- Crossrefの資金提供プログラムを使って**小規模ジャーナルのDOI取得を促進しよう!**

③ The OA Diamond Journal Study

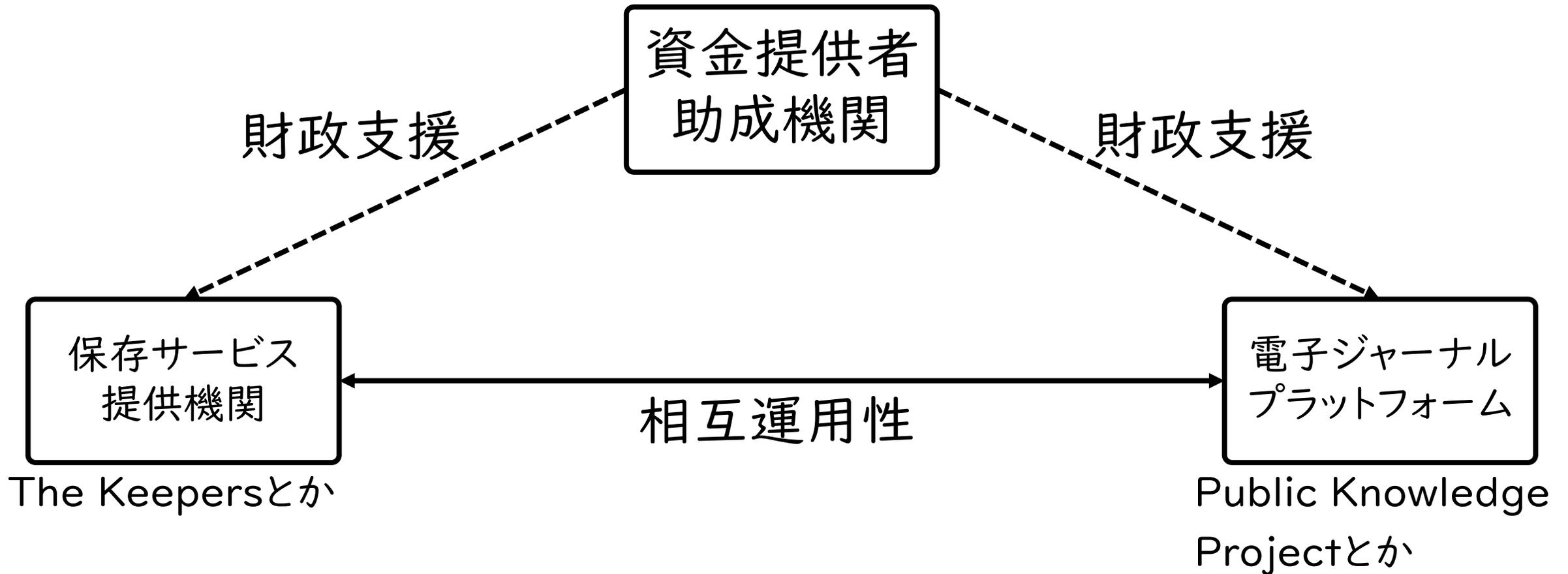
研究結果からの提言2.3【対象】資金提供者

学術雑誌を後押しし、そのコンテンツを長期保存（アーカイブ）することを可能にする。（Stimulate and enable journals to preserve their content）

- Plan Sのコンテンツ保存要件を改正し、より多くの保存サービス提供機関を含めよう！
- 保存サービス提供機関（The Keepers）に財政支援しよう！
- 保存サービスシステムとの相互運用性を高めるため、電子ジャーナルプラットフォームの開発組織に財政支援しよう！

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言2.3



③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言2.4【対象】資金提供者、研究機関、基盤（インフラ）

セルフアーカイビングポリシー登録の推奨

- セルフアーカイビングポリシーの重要性に対する認識を高めよう!
- セルフアーカイビングポリシーに関するPlan Sの要求事項に準拠し、世界中で定評のあるポリシー検索サービス（Sherpa/Romeoやそれ以外）に登録・修正しよう!

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言2.5【対象】資金提供者、基盤（インフラ）

フォーマットツールやサービスへのアクセスを向上させる (Improve access to formatting tools and services)

- XMLやHTMLで構造化コンテンツを生成する汎用ツールの開発を支援しよう!

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言3

能力開発 (Build Capacity)

1,600誌以上の調査サンプルによると、86%のOAダイヤモンドジャーナルが年間50本以下の論文を発行しています。これらは、雑誌編集プロセスの管理など似たような活動を行っており、その多くが、共同で取り組むことが可能な共通の技術的・財政的課題を抱えています。資金調達、索引付け、品質保証、マーケティング、知的財産、DOI の管理、あるいはテキストからXML/HTMLへの変換の技術やインフラなど、さまざまな分野での問題が明らかにされました。

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言3.1【対象】資金提供者、インフラ、研究機関、学会

OAダイヤモンド能力センターの設立 (Create an OA diamond Capacity Centre)

- OAダイヤモンドの関係者と協力して、技術、編集、財務、管理体制を構築し、OAダイヤモンドのサービスを強化することの実現可能性を探るためのセンターを設立しよう!

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言3.2【対象】基盤（インフラ）

OAダイヤモンドの組織的な市場開拓（Develop an organised marketplace for OA diamond）

- 会計、校閲、インデックス作成、マーケティング、技術などの分野でアウトソーシングが必要なサービスプロバイダーや専門家を探すための、管理・組織化された市場を作り、健全な競争を促しながら品質を向上させよう！

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言3.3【対象】資金提供者、研究機関、インフラ

能力センター設立準備のための国際シンポジウムやワークショップの開催 (Organise an international symposium and workshops to prepare the creation of the Capacity Centre)

- シンポジウムとワークショップを開催し、既存の国際的および国内的なプラットフォームを持つOAダイヤモンド出版コミュニティにビジョンと能力センターを提示しよう!

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言4

効果の向上 (Increase Effectiveness)

多様で断片的なジャーナルは活動（編集、校閲、組版、技術・ソフトウェアサポート費用などの支払い）に必要な資源（資金、ボランティアなど）を探す必要に迫られています。国内および国境を越え協力することで、ジャーナルがそのようなコストを合理化できる可能性があります。

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言4.1【対象】研究機関、学会

資金調達の支援と効率性の追求を目的とした協力関係のさらなる発展 (Further develop partnerships with the goal to help raise funds and seek out efficiencies)

- 機関や学会の学術コミュニティ、図書館コンソーシアムなどがより戦略的に協力し、開発補助金をより効果的に利用しよう!

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言4.2【対象】研究機関、学会

共有サービスやインフラの活用の検討 (Consider using more shared services and infrastructure)

- OAダイヤモンドのリソースの圧迫を緩和し、効率性とコスト削減を実現するために、より成熟し、相互接続された共有サービスおよびインフラの枠組みを構築しよう!

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言4.3【対象】研究機関、学会

ジャーナル運営におけるボランティアや現物出資の中長期的な役割
(Reflect on the mid- to long-term role of volunteers and in-kind contributions in running journals)

- 学術雑誌の所有者は、OAダイヤモンドを主導しサポートするために、**ボランティアや現物出資がどのように利用されているかを分析しよう!**

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言4.4【対象】研究機関、学会

ジャーナルの資金源の多様化 (Diversify journals' funding streams)

- OAダイヤモンドジャーナルの運営資金が不十分な場合、また単一の資金源や資金モデルに依存しすぎないように、**OAダイヤモンドジャーナルは、費用を賄うために1つ以上の追加の資金源の活用を模索しよう!**

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言4.5【対象】研究機関、学会

公式ジャーナル予算の安定的な運用を目指す (Aim to consistently manage formal journal budgets)

- OAダイヤモンドジャーナルは、損失を評価し、より効果的に効率化を図ることができるように、**標準化されたコスト構造**（収入源、間接費（現物、ボランティア、インフラ）、直接費、支払い）**に基づいて、より定期的に予算を管理しよう！**

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言4.6【対象】研究機関、学会

OAダイヤモンド誌をDOAJに登録する (Register OA diamond journals in DOAJ)

- 資金提供者が、提供するOAダイヤモンドジャーナルについて、またそれがDOAJの品質基準に適合しているかどうかを知ることができるように、**その基準に適合するOAダイヤモンドジャーナルはDOAJに登録しよう。**

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言5

未来への持続と投資 (Sustain and Invest in the Future)

OAダイヤモンド誌の70%以上が1-2人以下のFTEで運営されており、60%以上のジャーナルが1万ユーロ以下の年間コストで運営していると報告しています。この経費と運営コストは、短期、中期、長期のいずれにおいても必要です。さらに、よりつながりのある、効率的かつ効果的なOAダイヤモンド電子出版エコシステムとインフラを構築するために、別の投資も必要になるでしょう。

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言5.1【対象】資金提供者、研究機関、学会

OAダイヤモンドのための資金調達戦略の共同開発 (Collaborate on a funding strategy for OA diamond)

- 国の資金提供機関や政府機関、cOAlition Sを含む研究費提供組織、研究実施機関、図書館、その他のOAダイヤモンド誌の所有者や資金提供者が協力し、**今後5年間のOAダイヤモンド出版に関する国内外での資金戦略を策定しよう!**

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言5.2【対象】資金提供者

OAダイヤモンド誌の運営資金の安定的確保 (Consistently finance the operations of OA diamond journals)

- 研究実施機関、国の資金援助や政府機関、出版社、学協会、図書館は主に、スタッフ、支払債務、または現物支給を含む運営資金を提供してきた。**このような献身を継続しよう!**
- **DOAJが指定する品質基準を満たす雑誌に資金を集中させよう!**

③ The OA Diamond Journal Study

研究結果からの提言5.3【対象】資金提供者

OAダイヤモンドの未来への投資 (Invest in the future of OA diamond)

- 資金提供者は、研究を支援するために最適化され繁栄する新たなOA出版エコシステムの構築を支援する可能性を持っています。より統一され、相互接続され、相互運用可能なOAダイヤモンドのインフラとサービスを革新し、構築するために、**開発資金を投資しよう!**

③ The OA Diamond Journal Study

結論【対象】全ての関係者

新しいOAコモンズを目指して (Towards a New OA Commons)

私たちのビジョンは、多様で活気があり、革新的で、より相互接続され協力的なOAダイヤモンドジャーナルの生態系（エコシステム）を構築し、将来的には書誌多様性を支え、多くの言語、文化、ドメインに貢献することです。それが「OAコモンズ」です。

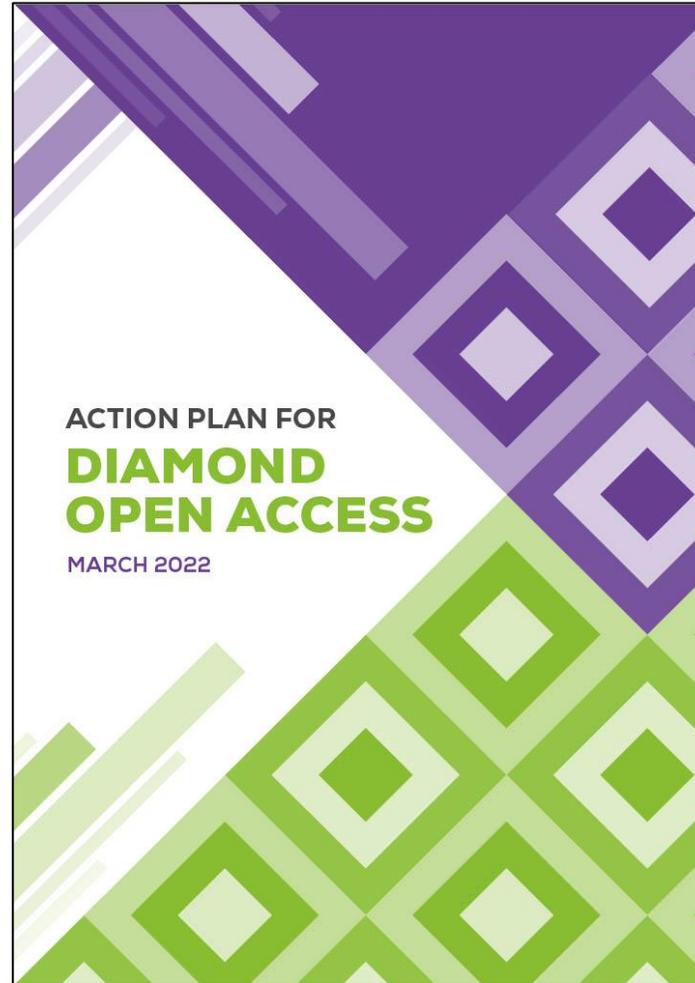
③ The OA Diamond Journal Study

結論

OAコモンズは、世界中のコミュニティ主導で運営されているジャーナルやプラットフォームを集め、より協調的な新しい方法で接続し、サポートすることになります。このビジョンは、機関、学会、政府、資金提供者 (cOAtition Sを含む) が、短期、中期、長期の運営と開発に資金を提供することを約束すれば実現することができるのです。このようにして、**OAダイヤモンド・コミュニティは、より健全で公平かつ持続可能な出版エコシステムに、将来にわたって大きく貢献することができるようになるのです。**

④ Action Plan for Diamond Open Access

行動計画



<https://www.scienceeurope.org/our-resources/action-plan-for-diamond-open-access/>

④ Action Plan for Diamond Open Access

概要【対象】研究者、編集者、研究機関

このアクションプランは、ANR、cOAlition S、OPERAS、Science Europeによって作成されました。

持続可能でコミュニティ主導のダイヤモンド学術コミュニケーションの生態系（エコシステム）をさらに発展・拡大させるための優先的な活動を提供するものです。ダイヤモンド・オープンアクセス・ジャーナルとプラットフォームを、この分野の強みである文化的、多言語、学問的多様性を尊重した共通の原則、ガイドライン、品質基準に基づいてまとめることを目的としています。

④ Action Plan for Diamond Open Access

1. 効率性 (Efficiency)

ダイヤモンド・オープンアクセス (ジャーナルの発行主体) は、(横のつながりがなく) 孤立しているため、共通のリソースを共有することで利益を得ることができます。ここでは、次の3つの行動をとることを提案します。

- 文化的な違いや学問的な要件を尊重しながら、**インフラ、規格、施策、実務、資金の流れの共有を促進**することで、品質基準を柔軟に調整し、持続可能性を生み出し、すべてのステークホルダー (利害関係者) の信頼を高める。

④ Action Plan for Diamond Open Access

1. 効率性 (Efficiency)

- ダイヤモンドジャーナルおよびプラットフォームにおいて、**技術サービスおよび運営をより利用しやすく、相互運用可能で、合理的なものにする。**特に、投稿システム、ジャーナルプラットフォーム、メタデータの整合性と相互運用性に注目する。
- 既存の組織・団体・学会のネットワークを通じて、**同じ分野・地理・言語のダイヤモンドジャーナルやプラットフォーム間の連携を図り、研究者や読者一般に対してより良いサービスを提供する。**

④ Action Plan for Diamond Open Access

2. 品質基準 (Quality standards)

ダイヤモンドOAジャーナルとプラットフォームには多様な慣行があります。生態系 (エコシステム) の品質水準を高め、柔軟に整合するために、次の3つの行動をとることを提案します。

- 様々な組織 (OASPA、DOAJ、COAR、COPE、SPE、EASEなど) が既に策定している**OA出版に関する基準やベストプラクティスを柔軟に整合させる**こと。これは、ダイヤモンドジャーナルを代表するコミュニティと共創して、ダイヤモンド出版のための国際的な枠組みを作るために行われる。

④ Action Plan for Diamond Open Access

2. 品質基準 (Quality standards)

- 学術出版の7つの中核的要素について、品質基準を規定し、**ダイヤモンド・オープンアクセスの生態系 (エコシステム) 全体におけるそれらの整合性を検討する。**

1. 資金調達とビジネスモデル
2. サービスの効率化と品質保証
3. 編集管理および研究完全性
4. 法的所有権、使命、管理体制の構築
5. コミュニケーションとマーケティング
6. 多言語、男女平等を含む多様性、公平性、包括性
7. オープンサイエンスの原則と実践の公開度・遵守度

④ Action Plan for Diamond Open Access

2. 品質基準 (Quality standards)

- ダイヤモンドジャーナルの品質基準を評価するための自己評価ツールを開発し、ダイヤモンド出版に関する国際的な枠組みを満たすための進捗状況を確認できるようにする。

④ Action Plan for Diamond Open Access

3. 能力開発 (Capacity building)

ダイヤモンドOAジャーナルやプラットフォームは、編集や運営スキルの面で違いがあります。この行動計画では、能力を高めるために、以下4つの行動を継続することを提案します。

- ダイヤモンド学術出版のためのツール群を作成し、能力開発をする。ダイヤモンド・オープンアクセスの編集者やサービスプロバイダー向けのトレーニング教材、ジャーナルの品質基準、著者や査読者のポリシー、ガイドラインが含まれ、共通アクセスポイントとして利用できるようにする。

④ Action Plan for Diamond Open Access

3. 能力開発 (Capacity building)

- 研究者、研究費提供組織、研究実施機関、大学図書館、大学出版部、学部、学科、研究所、学会、省庁など、**ダイヤモンド・オープンアクセスに関わるすべての関係者を巻き込み、ダイヤモンド・オープンアクセスにおけるそれぞれの役割を認識する。**
- **ダイヤモンド・オープンアクセス出版について、ターゲットを絞ったコミュニケーション戦略で、研究者に働きかける。**

④ Action Plan for Diamond Open Access

3. 能力開発 (Capacity building)

- 30ヶ月以内に専門的な非営利のCapacity Centre for Diamond Publishing (CCDP) を設立し、対象となるジャーナルや編集者に技術、資金、トレーニングサービスやリソースを様々なレベルで提供する。CCDPのガバナンスは、ダイヤモンドのエコシステムの分散性と多様性を適切に考慮し、透明性のある、ステークホルダーを代表するコミュニティとする。

④ Action Plan for Diamond Open Access

4. 持続可能性 (Sustainability)

ダイヤモンドOAジャーナルやプラットフォームは、研究者が所有し、主導しているが、その法的地位やガバナンスはしばしば未規定である。さらに、その収益源は、現物出資、さまざまなタイプの機関からの資金提供、一時的な助成金などのパッチワークに依存することが多い。ダイヤモンド・オープンアクセス出版のエコシステムの持続可能性を向上させるために、このアクションプランは、次の5つの行動をとることを提案します。

④ Action Plan for Diamond Open Access

4. 持続可能性 (Sustainability)

- ダイヤモンド・オープンアクセス誌のタイトルとプラットフォームの所有権とガバナンスを法的に認め、保護し、**コミュニティ主導の学問の持続可能性をより良く保証するための枠組みを構築する。**
- ダイヤモンド・オープンアクセスの**コストを理解し、責任ある透明性の高い財務管理を推進し、ジャーナル管理者、機関、資金提供者に収益、費用、財務の持続可能性を知らせる。**すべてのサービス提供者は、これらの原則を遵守する必要がある。

④ Action Plan for Diamond Open Access

4. 持続可能性 (Sustainability)

- 異なる形態のオープンアクセス学術出版間で、よりバランスのとれた財政支援の配分、および利用可能な財政のより良い透明な監視と配分を促進する。
- ダイヤモンドOA出版のすべての運営費が、研究費提供組織、研究実施機関、大学図書館、大学出版局、学部、学科、研究所、学会、政府などの機関のネットワークによって担われるようにする。

④ Action Plan for Diamond Open Access

4. 持続可能性 (Sustainability)

- これらの様々な資金源を、ダイヤモンド・オープンアクセス・ジャーナル、インフラ、および3の「能力開発」で提案されたダイヤモンド出版のための能力センターに提供し、調整された資金メカニズムを開発する。

⑤ 日本の状況

身近な例のみですが……

■ エンバーゴ無し・即時公開

大学図書館研究（国公立大学図書館協力委員会）

■ エンバーゴあり・6ヶ月後に公開

情報の科学と技術（情報科学技術協会）

→オープンアクセスの論文もありますが、Plan Sの「即時公開」の項目には準拠していない。

⑤ 日本の状況

- インフラはJ-STAGEと各機関のリポジトリがある。
- (一部の機関では) 出版会もある。
- オープンアクセスを推進する組織として、JPCOARがある。
- 出版社と交渉する組織として、JUSTICEがある。
- 電子資料を保存する機関として国立国会図書館がある。

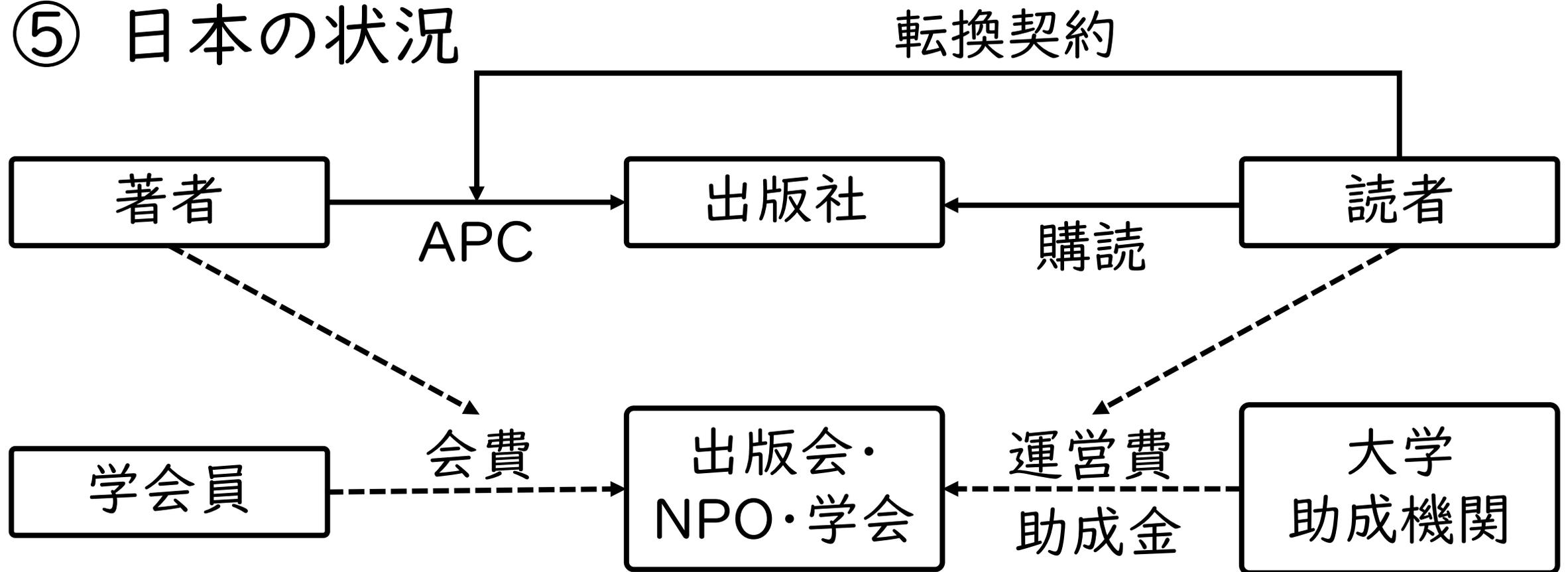
図書館員にできることは……、

→ 図書館と出版会の協働？

→ 研究者・学会への働きかけ？

→ 研究助成機関(日本学術振興会[科研費])への働きかけ？

⑤ 日本の状況



APCベースのゴールドOAへ転換している隙間で、
購読料をダイヤモンドOAジャーナル出版の発展の
ための経費に振り分けできるだろうか？

⑤ 日本の状況

【参考】DOAJ収録申請支援

(※ダイヤモンドOAジャーナルでなくゴールドOAのジャーナルも収録可能)

- 紀要編集者ネットワーク
- J-STAGEのDOAJ収載に向けた取り組み

実際に登載された例

- 日本機械学会学術誌 (Mechanical Engineering Journal)

⑥ オープンソースの電子ジャーナルプラットフォーム

Public Knowledge Project - Open Journal System

“Open Journal Systems (OJS) は、学術雑誌を管理・出版するためのオープンソースソフトウェアアプリケーションです。2001年にPKPが研究へのアクセスを向上させるために開発・公開したもので、現存するオープンソースの学術雑誌出版プラットフォームとしては最も広く利用されており、世界中で25,000誌以上が利用しています。”

Public Knowledge Project - Open Journal System <https://pkp.sfu.ca/ojs/>

⑥ オープンソースの電子ジャーナルプラットフォーム

Lodel, logiciel d'édition électronique

“Lodelは、特定の用途に合わせることができる使いやすい電子出版ソフトウェアです。コンテンツ管理システム（CMS）で、高度に構造化された編集環境での長文・複雑なテキストの編集に特化しています。”

Lodel, logiciel d'édition électronique (<https://www.lodel.org/>)

⑦ おわりに

本日の発表で私が伝えたいこと。【補足して再掲】

- (欧米の学術出版社に購読料とAPCを支払うお金がもったいないので、非営利に論文を出版する) **ダイヤモンドOAを推進** (できるようにお金の使い道の見直しを) しよう!
- **そのために図書館員** (が所属機関・研究者・助成機関への働きかけとして) **は何ができるか検討しよう!**

➤ 参考文献

1. Diamond open access (Wikipedia), https://en.wikipedia.org/wiki/Diamond_open_access
2. Green、Gold、Diamond、Black - what does it all mean?, <https://blogs.openbookpublishers.com/green-gold-diamond-black-what-does-it-all-mean/>
3. 尾城 孝一, 分裂するオープンアクセス運動, 2020.03.06, <https://rcos.nii.ac.jp/diary/2020/03/20200306-1/>
4. 船守 美穂, 商業出版社から決別できるか? 欧州のダイヤモンドOAと研究評価改革の取り組み, <https://researchmap.jp/funamori/presentations/36545708>
5. 中国化学会CCS Chemistry, <https://www.chinesechemsoc.org/journal/ccschem>
6. CCS Publication Policies (Chinese Chemical Society), <https://www.chinesechemsoc.org/policies>
7. Science Europeら、持続可能なコミュニティ主導のダイヤモンドオープンアクセス(OA)のためのアクションプランを公開, <https://current.ndl.go.jp/node/45720>
8. 英・Jisc、ダイヤモンドオープンアクセス(OA)を支援するための新しいアプローチ“Open Access Community Framework (OACF)”を発表, <https://current.ndl.go.jp/node/45706>
9. cOAlition SとScience Europe、「ダイヤモンドオープンアクセス(OA)」モデルの現状分析に関する調査報告書と調査を受けた推奨事項を公表, <https://current.ndl.go.jp/node/43508>
10. cOAlition S、募集中であった「ダイヤモンドオープンアクセス(OA)」モデルを分析・概観した研究の受託者を発表, <https://current.ndl.go.jp/node/41208>
11. cOAlition S、購読者・著者に財政的負担を負わせることなく論文を出版する「ダイヤモンドオープンアクセス(OA)」モデルを分析・概観した研究を募集, <https://current.ndl.go.jp/node/40652>

➤ 参考文献

12. 南アフリカ共和国・ケープタウン大学図書館、アフリカにおけるオープンアクセス出版のプラットフォームを構築,
<https://current.ndl.go.jp/node/42995>
13. オランダの学術雑誌にオープンアクセス(OA)出版を提供するプラットフォーム“OpenJournals.nl”の構築が始まる:2020年秋に運用開始予定,
<https://current.ndl.go.jp/node/41558>
14. 学術出版プラットフォームRedalycとAmeliCAがDOAJとの共同事業を発表:DOAJへのラテンアメリカの非APCベースのオープンアクセスジャーナル収録増加等を目指す,
<https://current.ndl.go.jp/node/41250>
15. Harvard Library、Science EuropeのダイヤモンドOAに向けた行動計画を支持,
https://jipsti.jst.go.jp/sti_updates/2022/03/13403.html
16. ヨーロッパの2つの研究助成機関グループが「ダイヤモンド」OAの厳しい現状をふまえ推進強化を表明(記事紹介),
https://jipsti.jst.go.jp/sti_updates/2022/02/13345.html
17. EUA、大学のOA活動促進のための実践ガイド"The new university Open Access checklist"を公開,
https://jipsti.jst.go.jp/sti_updates/2021/11/13151.html
18. Diamond Open Access、Societies and Mission, <https://scholarlykitchen.sspnet.org/2017/06/01/diamond-open-access-societies-mission/>
19. Reflections on the OA Diamond Journals Study, <https://www.coalition-s.org/blog/reflections-on-the-oa-diamonds-journal-study/>
20. Plan S. Principles and Implementation, <https://www.coalition-s.org/addendum-to-the-coalition-s-guidance-on-the-implementation-of-plan-s/principles-and-implementation/>

➤ 参考文献

21. 林 豊, Plan S:原則と運用, 情報の科学と技術, 2019, 69 巻, 2 号, p. 89-93, https://doi.org/10.18919/jkg.69.2_89
22. 佐藤 翔, 図書館情報学の窓から[第4回] Plan Sがやって来る ヤア! ヤア! ヤア!(前): オープンアクセスのこれまで, https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/y2019/PA03336_02
23. 佐藤 翔, 図書館情報学の窓から[第5回] Plan Sがやって来る ヤア! ヤア! ヤア!(中): オープンアクセスの限界と、打破する方法の模索, https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/y2019/PA03341_03
24. 佐藤 翔, 図書館情報学の窓から[第6回] Plan Sがやって来る ヤア! ヤア! ヤア!(後): Plan Sに乗るか否か?, https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/y2019/PA03345_05
25. 学術情報流通における「書誌多様性」の形成に向けて —行動の呼びかけ—, <http://doi.org/10.20736/00001276>
26. Fostering Bibliodiversity in Scholarly Communications – A Call for Action!, <https://doi.org/10.5281/zenodo.3752923>
27. Jussieu Call, <https://jussieucall.org/jussieu-call/>
28. DOAJ収録申請支援(紀要編集者ネットワーク), <https://kiyo.cseas.kyoto-u.ac.jp/doaj/>
29. 日本機械学会学術誌Mechanical Engineering JournalのDOAJ登載について, <https://www.jsme.or.jp/20211110-3/>
30. J-STAGEのDOAJ掲載に向けた取り組み, <https://blog.doaj.org/2022/03/25/j-stage%E3%81%AEdoaj%E5%8F%8E%E8%BC%89%E3%81%AB%E5%90%91%E3%81%91%E3%81%9F%E5%8F%96%E3%82%8A%E7%B5%84%E3%81%BF/>
31. Open Journal Systems (Public Knowledge Project), <https://pkp.sfu.ca/ojs/>
32. Lodel, logiciel d'édition électronique, <https://www.lodel.org/>

ご静聴下さり、ありがとうございました。

東京大学附属図書館／JPCOARイベント運営作業部会

下城 陽介

Mail: shimojo.yosuke@mail.u-tokyo.ac.jp